

JBC ボール検査合格証の記入について

平成 27 年 4 月 1 日

JBC ボール検査合格証 (記入例)

JBC		ボール検査合格証		No.○○○○○○○	
氏名	東京 太郎		所属	東京都	
J.B.C No.	13-A-○○○○○		硬度	75	
ボール 名	例 1) Black Diamond Particle Pearl 例 2) ブラックダイヤモンドパーティクルボール				
ボール No.	jp○○○○○	公認	WTBA	<input type="radio"/>	JBC
重量	6.97kg	指穴数	3	プラグ	<input checked="" type="radio"/> 有()
有効期限 平成 26 年 5 月 6 日より平成 27 年 5 月 5 日					

公益財団法人 全日本ボウリング協会

本証の有効期間は 1 年間とする

本証受領後ボールにプラグ等の再加工をした場合、本証は無効とし、新たに連盟または大会本部に届け出て再検査を受けなければならない。

ドリル日 平成 26 年 5 月 1 日

(No.○○○○ - 13 号)

公認ドリラー名 青森花子

検査日 平成 26 年 5 月 6 日

(No.○○○○ - 13 号)

検査員名 佐賀三郎

連盟名 東京都ボウリング連盟

氏名・所属・J.B.C.No.

JBC 会員証に記載されている、氏名、所属(連盟)名、JBC 会員番号を記入する。

※ボール検査合格証の有効期間内に、年度切り替え等により、氏名、所属(連盟)名、JBC 会員番号が変わった場合は、新しい氏名、所属(連盟)名、会員番号を訂正してそのまま使用する。

※訂正箇所には、JBC 公認ボール検査員が確認し捺印する。(訂正印は氏名・会員番号・所属のみ使用可能)

ボール名・ボールNo.・公認 (WTBA・JBC) 欄

ボール名は、ドリル証明証のボール名を WTBA (アプルーブリスト)・JBC 公認ボール (ホームページ) で確認して記入する。(例 1・例 2 の様にボール名は英文字・カタカナ記入どちらでもよい) WTBA か JBC の公認が確認できたらどちらかに「○」印を付ける。

ボールNo.は、ドリル証明証とボールに刻印されている番号を確認して記入する。

硬度

デュロメーターDにより、3箇所以上を所定の方法で測定し、その平均をそのボールの硬度とする。(競技終了すぐの測定はしないこと)

重量

ボールの重量は必ず「キログラム」単位で記入すること。

「重量」は台秤で計量することを原則とする。※小数点2ケタまで記入してもよい

指穴数・プラグ「無・有()」

ドリル証明証を確認してボール検査合格証に記入する。

有効期間

「ボール検査合格証」の有効期間は、検査日から翌年の検査日の前日までの1年間とする。(年度有効期間ではありません)

JBC 公認ボール検査員が責任を持って有効期間を記入すること。

(鉛筆での記入・日付の訂正は禁止します)

※特例とし有効期間終了日の年度のみ訂正印可能、月日は訂正印禁止

有効期間開始日の年月日は訂正禁止

例 平成 27 年 4 月 2 日～平成 27 年 4 月 1 日→訂正印使用可

平成 27 年 4 月 2 日～平成 28 年 4 月 2 日→訂正印使用禁止

公認ドリラー名・ドリル日

ボール検査に合格したらボール検査員がドリル証明証を確認して公認ドリラー名・ドリラーNo.・ドリル日を記入する。公認ドリラー印は押さなくてよい。

※検査するボールに対し、JBC公認ドリラーとJBC公認ボール検査員は、同じであってはならない。

※「継続印」について、一度ボール検査を受け、「ボール検査合格証」の有効期間が失効し、加工等を一切しないで引き続き使用する場合は、JBC公認ボール検査員が、失効した「ボール検査合格証」か「ドリル証明証」のJBC公認ドリラー名と番号・ドリル日を確認・記入の上で、「継続印」(連盟配布済)を赤色にて押す。

※新規に検査するボールは、「継続印」を押さずにドリル証明証を確認する。

検査日、検査員名、連盟名

ボール検査に合格した場合に、JBC公認ボール検査員の責任において、「検査日」・「検査員名」・「登録番号」を記入し、JBCに登録した印鑑を押す。

連盟名はボール検査員に販売する時に連盟が連盟印を押す。

JBC公認ボール検査員が、自分のボールを検査することは認める。

※ドリル前に「ボール検査合格証」に署名捺印をし、発行することは禁止する。

(ボール検査前に「ボール検査合格証」にJBC公認ボール検査員氏名が捺印された「ボール検査合格証」を発見した場合は、このJBC公認ボール検査員の資格を取消す)

有効期間内の再加工等について

「ボール検査合格証」の有効期間内であっても、ボールにプラグ及びドリル等加工を加えた場合は必ず再検査をし、新しい「ボール検査合格証」を発行する。

同じボールを2人で使用する場合について

同じボールを2人で使用する場合は、それぞれの選手に「ボール検査合格証」が必要です。

JBC公認ドリラー・JBC公認ボール検査員に不正があった場合について

JBC公認ドリラー・JBC公認ボール検査員に不正があった場合は、即座に資格喪失とし、発行された「ボール検査合格証」は無効とする。

公益財団法人 全日本ボウリング協会 認証部 発行